

単管ゲージに收容したシジミ生残状況について

1 目的

太田川再生方針に基づく短期的な取組として、塩ビ管内に広島市水産振興センター（以下「市センター」という。）で生産したシジミ人工種苗を收容し母貝まで成育させ、再生産の向上を図る母貝団地の造成を実施している。成育途中で、種苗を間引く必要があるため、その放流先として、クロダイ等の食害を防ぐことができる単管ゲージを、広島市内水面漁業協同組合（以下「漁協」という。）が設置した。単管ゲージに收容した種苗の生残状況を確認するため、市センター及び漁協で調査を行った。

2 単管ゲージ及び收容したシジミ

(1) 收容日

令和元年10月16日、17日

(2) 設置場所

京橋川右岸（広島市中区白島九軒町の白潮公園地先）（図1）

(3) 收容したシジミ

塩ビ管で成育した人工種苗（5.5kg/基）

(4) 単管ゲージの規格

縦2m×横2mで開閉式の蓋を付け、種苗の流出を防ぐため側面及び上部をネットで被覆した。

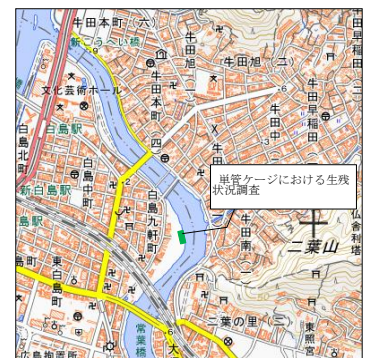


図1 調査場所

3 調査方法及び結果

(1) 調査日

令和元年12月10日、令和2年6月9日

(2) 調査方法

単管ゲージ内全面の表層約30cmの砂泥から回収したシジミの湿重量の計量及び個体数の計数を行った。

(3) 調査結果

単管ゲージから回収したシジミの湿重量、個体数及び回収率は表1のとおり。收容時と比べ令和2年6月の調査で回収したシジミの湿重量は1.2kgで、梅雨入り前にも関わらず收容時と比べ大幅に減少していた。

表1 調査結果

項目/日程	令和元年10月（收容時）	令和元年12月	令和2年6月（出水前）
湿重量	5.5kg	4.0kg	1.2kg
個体数	2,370個 ^{※1}	1,724個 ^{※1}	222個 ^{※2}
回収率	—	72.7%	9.4%

※1 令和元年12月調査時のシジミ1個体当たりの湿重量（2.32g）から個体数を算出

※2 殻長10mm以上の個体を令和元年10月に收容した個体と判断